

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文学部	教育 1-1
2.	教育学部	教育 2-1
3.	法学部	教育 3-1
4.	経済学部	教育 4-1
5.	理学部	教育 5-1
6.	医学部	教育 6-1
7.	歯学部	教育 7-1
8.	薬学部	教育 8-1
9.	工学部	教育 9-1
10.	環境理工学部	教育 10-1
11.	農学部	教育 11-1
12.	社会文化科学研究科	教育 12-1
13.	自然科学研究科	教育 13-1
14.	医歯薬学総合研究科	教育 14-1
15.	教育学研究科	教育 15-1
16.	保健学研究科	教育 16-1
17.	環境学研究科	教育 17-1
18.	法務研究科	教育 18-1

文学部

I	教育水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、人文学科の1学科に改編され、五つの専修コースが設置されており、各専修コースに教員が適切に配置されている。当該学部の教育に関しては、外国語教育センター所属の教員が兼任として担当教員となっており、国際協力教員とともに当該学部の教育の重要な部分を担っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育実施上の制度的側面は教育委員会、授業内容とその改革に関してはファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会、学生の生活・学習指導は学生生活委員会と、教育指導について役割分担と責任を明確にし、調整・統括組織として関係委員長連絡会を置いたことは事案への即応とその実効性を期待させる。また、具体的改革として、1学科制に伴う、1年次へのガイダンス科目の継続的改善と各年次向けのガイダンスの設定はきめ細かい教育指導体制を可能にしている。加えて、公開授業は学生・教員双方の授業への取組に役立つなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、1学科制改編によって1年次への指導が問題となるが、この問題に対応するため「基礎科目」という少人数クラス編成によるきめ細かい指導を展開し、2年次では「履修モデル」を提示して専門科目履修を指導するなど、段階的なカリキュラム編成をしていることは、外国語修得のための副専攻コースの開設と相まって、学生の学習意欲に応えるものであるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生や社会の要請を取り入れた外国語

レベルアップを目指す副専攻コースの開設が、学生の興味と負担を考慮した緩やかな位置付けとして学生に受け入れられており、年次定員を超えるその参加者数を得ており、修了生数は卒業生の4分の1以上を占めている。また、留学生制度の導入に加え、インターンシップの実施は学生と社会、特に企業の双方にとってメリットがある制度といえるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、1年次を対象とする導入教育を実施するなど、きめ細かい学生指導を可能にする少人数教育が展開されている。加えて、多くのティーチング・アシスタント（TA）を配置することで1年次から4年次におよぶ学習意欲を継続的に向上されることが期待できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生や社会の要請に対応して開設した外国語修得を目指した副専攻コースの開講時間帯に他の科目の開講を入れないことで、学生の主体的学習を促す配慮は大いに評価できる。また、各セメスターに指導学生の単位修得状況を各教員に通知し、学生の現状把握と学習・生活指導に努めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生の多様な学習意欲を向上させることによって、90%の学生が4年間で主専攻の卒業単位を修得した（「卒業状況」）のに加えて、副専攻コースの履修・修了を達成している。教員免許等の「資格取得状況」も順

調に推移しており、このことは、学部の教育指導体制が社会に通用する学力や資質・能力、さらには幅広い教養と知性を備えた人材を育てたことを示しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「岡山大学の教育方法・内容等についての卒業生による評価」と題されるアンケート（平成 17 年度・平成 18 年度）において、学部が教育目標に掲げている「自ら課題を見つけてそれに取り組む力」「国際的な視野」「外国語コミュニケーション能力」の獲得に関して学生から高い評価を得ているほか、大学教育全般に関する満足度も 86.5%と高い結果を示しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率がつねに 90%前後を維持し、広汎な業種に及んでいる。このことは地域に根ざした人材の養成と提供を達成していることであり、インターンシップをはじめ、地道な就職ガイダンスの努力の結果といえるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度から市内所在の高等学校すべてへの訪問と意見聴取を行うとともに、OB・OG からも意見を得ており、当該学部の教育体制や教育効果について高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部

I	教育水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年度に社会的要請に応じて学部教育の目的の実現を図るために総合教育課程を廃止し、入学定員 280 名のすべてを教員養成課程（2 課程）に特化することを内容とした学部改組が行われ、121 名の教員が配置され、学部教育の充実を図るための組織の編成が行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成 16 年 7 月に将来構想委員会の中に「カリキュラム検討ワーキンググループ」が設置され、平成 18 年度から教員養成に特化した学部改組にあわせた教員養成コア・カリキュラムが導入された。平成 18 年度には中央教育審議会の答申（平成 18 年 7 月）に対応して教員養成カリキュラム検討機構が設置され、学部の教育課程管理を担っている。恒常的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動についてこれを専門に行う FD 委員会が設置され、取組が展開されている。そのほか学生による授業評価とその活用、シラバスの改善、ウェブサイトでの公開等、教育内容、方法の改善に向けて取り組む体制が整えられている。また、大学・学部の枠を超えた取組として、文部科学省資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成 GP）に採用された「大学コンソーシアムによる幼稚園教員の養成」事業では、地域大学間連携機構の構成大学教員と連携した FD 活動に先進的な役割を果たしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、実践的指導力を身に付けた教員を養成するために教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムが開発され、実施されている。すなわちカリキュラムの軸に 1 年次から 4 年次にわたる教育現場での体験・実習活

動を位置付け、4年間で5期に分けて各期の狙いを明確にし、標準的履修モデルを示すことによって実践的指導力を備えた教員の養成が図られている。学校現場や他の機関との連携による「プロジェクト科目」の新設、4年次後期に学校での長期にわたる経験を積む「学校教員インターンシップ」の導入等、斬新な取組が展開されており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生生活実態調査によって学生の授業に対する要望を把握し、将来役に立つ内容の授業、授業評価の授業改善への反映、資格試験等の受験指導等学生の要望に応えるための具体的な取組が展開されている。その結果、授業への満足度は、平成13年度の48.4%から19年度の54%へと上昇している。社会からの要請について、岡山県教育委員会、学校現場、同窓会等と情報交換を行い、教育内容の改善に生かされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、現代の教員養成に求められる実践的指導力を育てるために大学での授業と学校現場での実践との有機的な関連が図られている。1年次から4年次にわたる体験・実習活動、4年次での「学校教員インターンシップ」、「プロジェクト科目」等特色ある授業科目が設けられている。その他「情報メディアの授業活動」、教員養成実地指導講師制度の活用、ティーチング・アシスタント(TA)の活用等の多様で優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、1年次からの講座配属、指導教員の配置、2～3年次からの「学校支援ボランティア」（課外活動）、4年次での「学校教員インターンシップ」等を通して学生の主体的な学習を促す取組が展開されているとともに、図書館、資料室、学生控室等の充実、整備が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成18年度における学生の進級状況は、卒業率は86.5%、修了年限内卒業率は79.9%であり、卒業生一名当たりの免許取得数も平均で3.1（学校教育教員養成課程）、2.3（養護教諭養成課程）であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成18年度の卒業予定者を対象にして実施された教育方法・内容等に関する評価の結果によると、学部教育の効果について高い評価が与えられているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成19年3月の教員就職率は60.9%、そのうち正規採用率は39.6%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、当該学部出身者は岡山県教育委員会から採用後の伸びが期待される人材として評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

法学部

I	教育水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、規模縮小にもかかわらず、学生の要望に応える講義を提供するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、取組体制が確立されるとともに、過去のアンケートの結果のフィードバックも実現されている。教員相互の講義参観が実施されるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、各学年に少人数の演習科目を開講している。また昼間コースについては、開講科目を2つの系列に整理するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会からの要請への対応が適切かどうかの判断データに欠けるが、実習と実務家による講義を拡大するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、成績評価体制の確立などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の学習サークルへの教員の積極的関与などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、科目不合格者や留年者の割合はおおむね良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、基礎的な学習能力拡充が求められるものの、卒業生による評価の結果を見ると、法学的思考能力の実質的向上がうかがわれるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職希望者のうち就職が決定した者の割合が 89.5%であり、就職率がおおむね良好であると推察される。また大学院への進学者も 40 名弱存在するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、専門的な知識・技能についてはそれほど評価は高くなかったが、勤労意欲、向上心、協調性、論理的・合理的思考能力は高い評価であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部

I	教育水準	教育 4-2
II	質の向上度	教育 4-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、昼間コースと夜間主コースを設置している。入学定員充足率（平成 19 年度）は昼間コース 110%、夜間主コース 113%であり、専任教員当たりの学生数は学部全体で 28.4 人となっている。教育の実施体制の状況を示すこれら主要指標は、全国平均値等に照らしておおむね良好な水準にある（数値データは大学情報データベース「現況分析用データ分析集」2007 年度（平成 19 年度）を参照）などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、FD 委員会が教育内容・教育方法の点検を行い、改善活動を行っている。新入生教育とキャリア教育については、ガイダンス科目、インターンシップ、各種進路説明会、教職のための教育実習等を適宜関連付けて実施できるように、平成 19 年度からキャリア教育委員会が集中して担う体制が構築・整備されている。また、学生の入学から卒業に至る学部教育のあり方全般を見直し、必要な提言を行うことを目的として、平成 18 年度から、副学部長を長として関連する諸委員会のメンバーを結集した入口・出口委員会を設置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、履修コース制を設定するとともに、開講科目を、必修科目、選択必修科目、自由選択科目に分類した体系的なカリキュラムを編成している（昼間コース）。Semesterごとに履修単位の上限を定め単位の実質化を図る一方で、成績優秀者には 3 年間で卒業を認める早期卒業制度を導入し学生の学習に対するインセンティブを高めており、また、岡山県知事・副知事らによる「現代地方自治経営論」、岡山経済同友会の協力を得て開催される「経済経営特殊講義」、野村證券提供の「資本市場の役割と証券投

資」等の特殊講義を開設するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、民間企業への就職志望者が必要とする広汎な知識と多面的な能力の修得を可能にする多彩な科目を、履修コース制という枠組みのもとで提供している。税理士・公認会計士といった高度専門職業人を目指す学生の学習ニーズには、「経営・会計コース」を設置することで対応を図っている。また、全国的に減少しつつある夜間主コースを維持することで、経済的困難を抱える学生や再教育を希望する社会人・職業人の学習ニーズに対応するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、論文指導、実習という4種類の授業形態の組合せでカリキュラムが編成されている。このうち、少人数・双方向型の授業である演習と、専門知識の修得を主眼とした講義はすべての学年に配置され、両者の相互補完と相乗効果が期待されている。とりわけ、「修学の方法Ⅰ」と「2年次演習」を必修科目とし、それによって学生の主体的な勉学姿勢の早期定着を図っていることが、注目される。FD委員会における「修学の方法Ⅰ」の経験交流の蓄積、キャリア教育委員会による「就業体験実習」の運営と分析・改善が、学部レベルの独自の創意工夫の取組として実施されるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、セメスターごとに履修単位の上限を定め単位の実質化を図ることで、学生に対して問題関心の明確化と履修科目の主体的選択を促す体制を構築・整備している。それに加えて、成績優秀者には3年間で卒業を認める早期卒業制度を導入していることは、学生の学習に対するインセンティブを高める積極的な試みとして評価できる。また、アンケートやシャトルカード等の利用を通じて学生の勉学意欲を恒常的に高める取組がなされていること、2年次から演習を課すことによってきめの細かい学習指導を行っていること、インターンシップや学生懸賞論文制度を設けることで学生の主体的学習を促していることなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、3年次から履修上限引き上げの条件となる成績優秀者（70単位以上修得で平均80点以上）の数が、同学年学生の約3分の1に達している。外部検定試験にもとづく単位認定者の割合がおおむね高い水準にあること、公認会計士試験合格者（平成16年度3名、平成17年度5名、平成18年度4名）が中四国地方の大学の中では上位の水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、各授業科目の受講者を対象にした「学生による授業評価アンケート」では、学生は授業分野の重要性を十分に認識していることが示されている。卒業間近の学生を対象にした「卒業予定者アンケート」の結果では、「専門的知識等」は低い評価であるが、「幅広い教養」は高く、「国際的な視野」「外国語能力」「リーダーシップ」などもおおむね高い評価であることが示されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、毎年卒業生の9割以上が進学ないし就職を決めているが、近年は大学院進学者が増加しており、公認会計士試験合格を目指す者も散見される。就職者では、公務員とりわけ地方公務員となる者の人数が目立っている。民間企業の就職先では、不動産・金融・保険関係が多く、全体の3割近くに及んでいる。以上に見る卒業後の進路の状況は、経済学部での教育の成果をおおむね反映したものと推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生が幅広く社会に受け入れられていること、とりわけ地元経済界から卒業生の積極的な採用の意向が当該学部宛に寄せられていること、当該学部入学試験受験者が漸増していることは、企業や地域社会の関係者が当該学部卒業生の学士としての資質を評価していることが推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学部

I	教育水準	教育 5-2
II	質の向上度	教育 5-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、5学科と三つの附属施設を設置して、大学院自然科学研究科所属の教員（平成19年度からは助教を含む）105名が教育を兼担する体制を整備している。その結果、教員一名当たりの学生数は5.7名と標準教員数を満たしている。また、平成18年度に複合領域科学コースの新設に向けたフロンティア科学教育研究推進室を設置して検討を開始しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、各学科委員から構成される教務・学生支援委員会とその中に設置される教務FD委員会によってシラバスの改善等の教育体制の充実について審議しているほか、各学年から選出された20名の学生委員と教員による学生・教員FD検討会を年2回開催し、授業改善について意見交換を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養教育科目と2年次から各学科において順次導入される専門教育科目を配置し、3年次以降の高度な専門科目への円滑な移行を目指した体系的な編成となっている。また、平成18年度から2学科以上で開講される専門科目をそれぞれ12単位以上修得することによって卒業できる複合領域科学コースを設け、幅広い社会的素養と高い専門性を兼ね備えた人材の育成を目指しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生からの要望は、学生・教員FD検討会、学生意見箱及び学生による授業評価の自由記述等によって汲み取り、解決を図っており、学生による授業評価アンケートでは、5段階の4以上との評価が40～50%であるのに

対して、3未満の評価は3%である。また、国際社会に貢献する高度専門職業人育成のために、少人数制の専門英語講義を準備し、課題研究の発表技術の指導を行っているほか、平成19年度より学芸員免許取得のための授業科目を開設した。さらに、高等学校への出前授業や公開講座の開講、スーパーサイエンス・ハイスクールに指定された高等学校の運営指導委員として教員の派遣、附属臨海実験所の公開臨海実習等の小・中・高等学校との連携事業にも努力しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各学科の専門性にあわせて講義・演習・実験・実習が適切に配置され、実験・演習科目には履修学生10名に対して1名の大学院生のティーチング・アシスタント（TA）を配置している。複数回の試験やレポートによる多面的な成績評価を行い、平成19年度から教員と学生の双方向授業やe-learningを導入し、専用のサーバーによる授業管理ソフトを用いて、講義資料のダウンロードや連絡事項の掲示板としての使用を開始した。さらに、新入生研修旅行を補助し、教員や同級生との交流促進を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、平成14年度から年42単位の上制限を導入したが、平成18年度に一部改正し、成績優秀者には追加の履修登録を認めて、主体的な学習をさらに促す変更を行った。早期卒業制度も平成14年度入学者から導入し、既に7名の学生が早期卒業して大学院に進学している。さらに平成16年度より理学部表彰内規を定め、「第2年次終了時優秀者賞」及び「理学部長賞」を授与している。さらに、1年次生向けに文献調査法や図書館の利用説明等の自然科学入門を開講するなどの高等学校からの学習から大学での学習に円滑な接続を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、成績優秀者に上限を超える履修登録を認めているが、その条件を満たす学生数が増加している。また、専門英語教育として少人数による英語文献の購読を進めているが、英語検定試験 TOEIC で高成績を取る学生数が増加しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、卒業予定者を対象に実施した調査において、専門的知識及び論理的思考力を獲得することができたと判断した一方で、外国語能力とリーダーシップの獲得については不十分と感じていることがわかった。また、全学で行った「学生による授業評価アンケート」では、理学部学生は、学業の達成度が高いと感じていること、平成 18 年後期に実施した「理学部学生の授業評価アンケート」では、「授業分野の重要性をさらに深く認識するようになった」と答える学生が多数となったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生約 45%が大学院自然科学研究科に進学しているほか、約 5%が他大学の大学院に、約 40%が製造業・情報通信業・教育学習支援業等の専門的職業に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度に実施した最近 10 年間の全卒業生約 1,500 名を対象としたアンケート調査において、就職支援については約 70%が十分に得られなかったと評価されているが、基礎と専門知識の獲得では約 70%、教育研究施設については約 75%から肯定的な評価が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

医学部

I	教育水準	教育 6-2
II	質の向上度	教育 6-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員組織は充実しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学科のファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画、実施の取組が積極的になされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、医学科ではバランスのとれたカリキュラムが編成され、指導体制も整っており、保健学科でもカリキュラムの改訂と副専攻コースの設置を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生や社会の要請への対応も個別指導体制を取り、きめ細かく行き届いているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、医学科ではきめの細かい学習指導がなされ、「医学研究インターンシップ」と中心とした先進的な取組が平成 19 年度特色ある大学教育支援プログラムに採択されていることから、期待される水準を上回ると判断される。保健学科でも、専攻、学科を越えたチーム医療の取組がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、医学科では医学研究インターンシップがなされており、保健学科ではチーム医療への取組がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、医学科ではストレート卒業率が 90% 前後を維持しており、医師国家試験の合格率も 90% を越えており、保健学科の国家試験合格率も高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価や臨床実習のアンケート等からはおおむね高い評価が得られており、アンケートの結果をフィードバックして改善に努めているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、医学科ではほぼ全員が卒業臨床研修を行っており、研修体制は十分確保された状況にあり、保健学科の就職状況も良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生の資質に対する評価が卒業研修セミナーや卒

業生アンケートから両学科ともおおむね良好な評価が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は8件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

歯学部

I	教育水準	教育 7-2
II	質の向上度	教育 7-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学設置基準を満たす歯学教育に必要な教員組織を確保している。各学科目における専任教授の配置もバランスが取れている。また臨床実習の充実を図るため学外から臨床経験の豊富な歯科医師を臨床教授として招聘しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、歯学部教務委員会が中心となり、その中に各種専門部会を設け、カリキュラムの策定等学部全般の教育事項についての活動を行っている。そのために、全教員の連携の下に教育内容、教育改善に向けての体制が構築されている。平成19年度からは同僚による授業評価を二つの専門科目で実施している。また学生による授業評価やファカルティ・ディベロップメント（FD）ワークショップを実施し、教育にフィードバックしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、歯学教育モデルカリキュラムに基づき、初年次より専門教育を導入し初期の教養教育、導入教育と後半の専門教育科目をバランスよく編成している。また独自に策定した特色ある専門科目としてチュートリアル、自由研究演習、短期海外留学制度、生命倫理学等を開講しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、バランスの取れた専門教育科目が組み立てられていることとともに国家試験対策部会を教務委員会内に設け、受験対策を支援している。その成果として毎年の歯科医師国家試験は高い合格率を維持している。また研究志向の学生を育てるために平成18年度から優秀な学生を学部5年次から大学院に進級させる飛び級

制度を実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、クォーター制少人数教育の利点を活かして指導に当たっている。またアカデミックアドバイザーとして顧問教員制度を設け、入学から卒業まで一貫した指導を行っている。また実習・演習系の個人的な指導者としてティーチング・アシスタント(TA)を多用し対話型専門教育の指導における補助者として活用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、クォーター制を採用していることから早ければ2か月ごと又は4か月ごとに成績判定がなされる。このため学生にとっては早期に成績が分かる自己モニターとして役立つなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成14年度から実施されている自由研究演習(研究室配属)では、全体発表会や報告書の作成が行われる。それらの成果は学会発表や一流雑誌の英文論文に結びつくものもある。またこの成果を基にスチューデントクリニシャンプログラムの国内予選会に参加し入賞を果たしている。臨床教授制度を取り入れた診療参加型臨床実習は充実した内容となっており、その成果は歯科医師国家試験の高い合格率等にも反映されているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回

ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 18 年度卒業予定者アンケート調査によると、教育目標の達成度が高かったものは「専門的知識」「困難対処能力」「協調性」であった。これらはいずれも歯科医師として重要な資質であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、歯学部学生においては卒業後の進路選択として歯科医師国家試験の合格が最大の関心事である。当該学部は同国家試験合格率は常に全国でトップクラスである。歯科医師臨床研修、その後の大学院の進学はスムーズに行われている。卒業生の進路としては最終的に開業するものが圧倒的に多いが、大学教員、研究所勤務、病院勤務、厚生労働省や地方の保健関係の仕事に就くもの等多種多様な分野で活躍しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、保健行政に関わるものが多数いるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 5 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

薬学部

I	教育水準	教育 8-2
II	質の向上度	教育 8-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年度からは 2 学科、薬学科（6 年制、入学定員 40 名）と創薬科学科（4 年制、入学定員 40 名）となり、教員を適正に配置し、薬学部での専任教員一人当たりの学生数は 7.4 名であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教務委員会の活動を支援する各種の委員会を設置しているほか、教員の問題意識やスキル向上を図るための講習会として薬学部 FD フォーラムを開催したりして、教員の講義の質を高める工夫をしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養教育科目、専門基礎科目、専門科目と分類し、適正に開講されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、薬剤師国家試験の合格率が常に 90%を前後するレベルで維持されているほか、高校生に対して講義を開放・履修許可等を取り入れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義以外に、チュートリアル形式や実習形式で教育を行い、講義室にはプロジェクター等も完備するなどの工夫をしているほか、ティーチング・アシスタント(TA) やリサーチ・アシスタント(RA) を活用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、少人数担任制を採用し、毎月一回以上の面談を行っているほか、病院等への早期体験学習や新入生学外合宿研修等を実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 19 年度の 3 年次への進級率は 98% であり、また国家試験合格率も高いレベルであるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生に対するアンケートの高回収率を目指して実現しており、正確な評価の把握に努め、その解析結果では 5 段階で判定して 3.9 の評点を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進学する者が 73% と大多数を占めているほか、就職する場合は 8 割以上が医療機関となっているなどの相応な成果があることから、

期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 18 年度で 958 件の求人があり、就職希望者数をしのぐ求人数があることから、ほぼ全員が進学ないし就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 4 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

工学部

I	教育水準	教育 9-2
II	質の向上度	教育 9-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、1年次入学定員460名、3年次編入学定員30名に対して、専任教員数が151名と必要な教員数が確保され、定員が適切に充足されている。また、工学を構成する主要な学科を適切に整備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育改善の中心組織として教務委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、工学教育評価外部委員会が組織され、授業評価、授業参観等が行われているとともに、英語力の必要性から卒業要件に基準以上のTOEICの得点を課しており、また教育の継続的改善の制度と実績が3学科の日本技術者教育認定機構（JABEE）認定の基盤となるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、授業科目関連図、時間割、シラバスの例に示されているように、1年次の教養教育科目重点から、高年次の専門分野中心まで、また、必修・選択必修・選択に分けて、適切に科目を構成するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、留学プログラムにおける単位互換、インターンシップ、文部科学省特色ある大学教育支援プログラム「日本語力の徹底訓練による発想型技術者育成」などを積極的に実施するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、シラバスの活用やティーチング・アシスタント（TA）の任用等により、教育内容に応じて講義・演習・実験実習を適切に組み合わすなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、素点による成績開示、CAP 制、アドバイザーや記録簿の作成などにより主体的な学習の支援を行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、指針に基づく科目ごとの評価を積み上げながら、平均 70～80%の入学生が標準年限で卒業しており、JABEE 資格 269 名（平成 19 年度）、教員免許 26 名（平成 19 年度）、TOEIC 平均スコア 420 点超などの資格等の取得を含めて成果を上げるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、卒業時の学生アンケートで、「非常に満足している」、「かなり満足している」、「やや満足している」を合わせて 80%を超え、学生の満足度は高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、求人数が就職希望者数の約 27 倍と高く、大学院を経た卒業生を含めた就職率が約 96%と高水準であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生及び企業の採用担当者へのアンケート結果により、理工系一般・専門知識をある程度以上に身に付けさせたと評価されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 6 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

環境理工学部

I	教育水準	教育 10-2
II	質の向上度	教育 10-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、環境問題の解決・解明に当たる人材育成に対して総合的・学際的視野からの教育を実施するための4学科編成は、VF（Vision of Faculty）検討委員会の十分なる検討を踏まえて編成されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を4学科中3学科について得ており、残り1学科も受審に取り組んでいる。学内の教務FD委員会の活動や授業評価アンケートに基づく授業改善、さらに環境学教育に関する教員の研修等、改善に取り組む体制が充実しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、環境理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、環境理工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査で適切な評価を受け、体系的な4年一貫教育実施の配慮、環境学教育の充実に向けて学部共通の12科目の専門基礎授業科目の設置等充実した編成がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、キャリア教育への取組、学生アンケートに基づく教育内容の改善、数多いインターンシップ科目の開設、さらに、実践型の集中講義等、大変充実した対応が取られているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、環境理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、環境理工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断され

る。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、4学科とも環境学教育に向けたバランスのある講義と演習、実験、実習及び現地研修等を編成し、学習指導法の工夫やティーチング・アシスタント（TA）の活用、さらに、実践的環境教育の実施など、基本的な指導が良く工夫されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自習支援の環境整備やクラスアドバイザー制度及び学生による達成度の自己点検等に取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、環境理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、環境理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、4学科とも3年修了時に必要な100単位以上の単位修得者をチェックして卒業論文に取り組ませている。一貫した4年間の指導により高い率で卒業しており、さらに、卒業生の半数以上が大学院に進学しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価アンケートでの自己の達成度や専門基礎科目、専門科目に対する総合評価等、学生の評価は高い水準にあるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、環境理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、環境理工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

